

ペンテコステ（聖霊降臨日）礼拝

礼拝6月5日（日）

題 『ペンテコステとは？』

テキスト：使徒言行録2章：1～13節

今日のご一緒にペンテコステ・聖霊降臨日礼拝を捧げています。

このことを神さまに感謝いたします。

ペンテコステとは新約聖書が書かれているギリシア語では「50日目」という意味です。ペンテコステは、地上に主イエスの教会が誕生した日として、キリスト教会では、クリスマス、イースターとならぶ大切な日なのです。その意味は、地上の教会の誕生日です。クリスマスとイースターに比べてペンテコステは世の中にあまり知られていないのが正直な所であり、残念な点でもあります。聖書によれば、イエスさまは十字架で死なれ、3日目に神さまによって復活された後、40日間地上において弟子たちに姿を表されました。そして天に昇られました。それから10日後、つまり復活されてから50日目に神さまの力である聖霊が弟子たちに注がれ、そして世界に教会が誕生していったことを記念する日です。

このペンテコステの時に、どのような出来事が起こったのかが聖書に記されています。今日はここに集った皆様と共にペンテコステの意味を受けとめたいと思うのです。

まず、ペンテコステの日にはどのようなことが起こったのでしょうか？

先ほど聖書を読みました。そこに書いてありました。

◆聖霊が降る 1:五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、  
2:突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。 3:そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

とても不思議な出来事が起こったのです。

1:五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、

五旬祭、小麦の初穂を祝う祭りです。

イエスのことを慕っていた弟子たちや大勢の人たちが、大人も、男も女も、子どももいたのではないかと思います。イエスさまの弟子たちは、一緒に集まって、イエスさまのことを思い出しては話しあったり、お祈りしたりして過ごしていたのです。地上にイエスさまがいなくなり寂しく、悲しんでいた多くの人たち

もいたでしょう。中には復活されたイエスさまに会った人、イエスさまを見た人もいたでしょう。

しかし、集まっていた人たちはまだまだ元気がなかったのです。大切なイエスさまが亡くなり、それも十字架で死んでしまわれた、それも殺されてです。

さて、そのような中、ペンテコステの出来事が起こったのです。

2:突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。 3:そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。 この場面を描いたスペインの有名な画家エルグレコの「聖霊降臨」という名の有名な絵もあります。スペインに行ければ良いですが、徳島の大塚国際美術館で陶板画で観ることもできます。

その日、突然、風、音が部屋に響いたのです。そして炎のような舌が現れ、一人一人の上にとどまりました。

そこにいた人々は一体何が起こったのか分かりませんでした。

ペンテコステ、聖霊降臨、「何のこと？」と思う人もいるでしょう。理解できない人も多いのではないかと思うのです。それは当然だと思います。

ここでの風とか音、炎、舌とかは、神さまが、愛なる力の神さまが共におられるという印であり、一つの表現であると言えるでしょう。そしてそこにいた人たちが、愛なる神さまが共におられることを知ったという出来事だったのです。

その時、神の子イエスさまを中心とする教会が誕生したのです。

教会とはイエスさまを中心とする、それを信じる人々の集まりなのです。

ところで、聖霊は、よく風や息にたとえられます。

風は吹いても目で見えません。でもあります。存在します。身体で気持ちよく感じるができます。暑い日には格別です。風はどこから吹いてくるかは分かりません。

息も見えません。でもあります。息ができなくなったら人間は死んでしまいます。

苦しい時に深呼吸するとほっとします。一息つくといえます。そのように風や息は人間が生きていく上で必要なものです。

そうです。肉眼の目で見えなくても大切なものがあるのです。

神さまもそうです。目で見えないのです。神さまは愛をもって世界を造ってくださった方、神さまは、特にイエスさまを通して、ご自身を、まことの愛を、ビタミン100%の愛を示してくださったのです。

聖霊は、幽霊、亡霊などではないのです。

聖霊は、今働いておられる神さまの愛の力なのです。風や息のように人を生かす力なのです。エネルギーなのです。ギリシア語ではエネルゲイアと言われます。凄く元気が出る言葉だと思います。悲しむ人、弱った人を元気づけてくださる力が神さまの力である聖霊だということを今日覚えておきたいのです。

愛は、目で見えなくても心で感じる事ができるのです。

神さまは愛だからです。愛は心で感じるのです。それが人に伝わり人を勇気づけるのです。愛あるところ神います、と言われます。

聖霊が与えてくださるものは、具体的にその働きで分かるのです。

愛、喜び、平和、希望、信仰。それは慰め。善き力なのです。そして真の愛には自由があるのです。

「愛あるところ神います。」愛とは目の前にいる相手を大切にすることです。

4:すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しました。

弟子たちは、この神さまからの愛を知って、いろんな人たちに、イエスさまのこと、互いに愛し合う、大切にしようことを伝えて行きました。

そのようにして神さまの教会は今日まで続いて来たのです。そしてこれからも。わたしたちもその中にいるのです。神さまの愛の力を頂きながら元気を出して生きて行きましょう。

主の平安を祈ります。